

## 米沢市職労青年部編 (その4) 仲間とともに変化を起こし、一歩前へ!

半年の活動を経て、米沢市職労青年部にどのような変化が起こったのでしょうか。

### ● 米沢市職労青年部に変化を

今回で米沢市職労青年部編は最終回となります。ついに、新書記との初対面を果たしました。：「ん？何を言っているんだ？」と、はじめてこの記事を読んだ方へ、これまでの流れを説明します。

もともと二〇一五年一〇月に福井県鯖江市にて「UNDER35 JK課×自治研IIゆるぶろ！」に米沢市から二人参加し、女子高校生との交流をニヤニヤ楽しんでいたら、自治労本部の方から声を掛



けていた  
だき、米沢  
市職労青年  
部でもゆるい  
企画をすることに  
なりました。はじめは何か成果をあげないといけないのではと恐縮し、断ろうかと思いましたが、少しのことでは怒らな  
いみたいなのでやってみました。

市民との交流が目的でしたが企画が思い浮かばず、ちょうど組合で若い書記を採用するというので、民間出身者から米

沢市職労青年部へ新しい風を吹き込み、「変化」を起こしてもらおうことをめざしました。

### ● 新規採用職員との交流

前回まで記事を書いていた事務局長には内緒にしておりましたが、新書記は私と事務局長の高校の同級生でした。すごい偶然でしたが、初対面ではないこと、民間出身ではなくほぼ公務員経験者だったので企画の根幹がブレてしまいました。今年度採用された新規採用職員とともに交流しました。

四月二三日、新規採用職員一〇人と新書記一人が参加し、基本組織の方から組合や賃金・権利などについて、青年部より青年部活動についての学習会を行いました。その後、新規採用職員・青年部員・基本組織役員で交流会を行いました。

今年は例年より採用人数が少なく、年齢もさまざまのように交流していけばいいの不安がありました。実際に交

流してみると、例年にないくらいに独特な自分の意見や考えを持っていて新鮮でした。

### ● 新規採用職員へのアンケート

この学習会のなかで、新規採用職員と新書記に、若い・志の高い・純粋な気持ちを聞いて、青年部へ流し込むべくアンケートを取ってみました。

なかでも「米沢市職員、公務員になりたいと思ったのはどうしてですか？」という問いに対して、  
・地元で就職したい思いが強かった。  
・高校の時から公務員になると決めた。  
・米沢の子どもの健康面を支え食育に取り組みたかった。

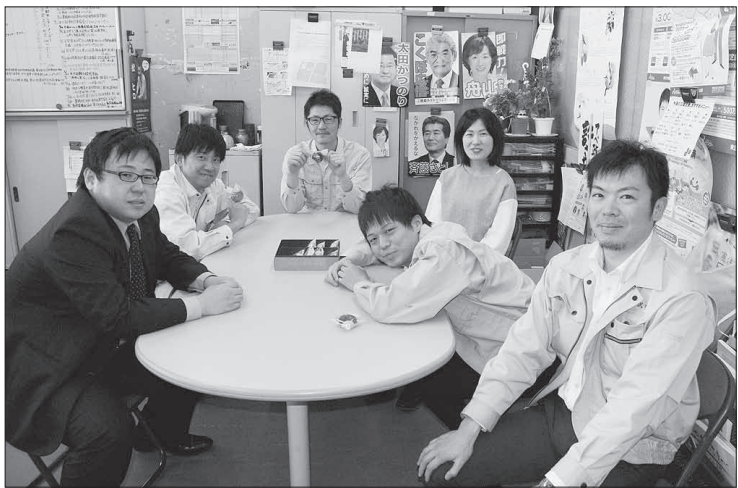
・米沢市民のために働きたいから。  
・市職員の労働環境を整えることで、より住みやすい「米沢」になると思ったから。(新書記)

といった回答が寄せられました。確かに、こんなことを思いながら就職活動していたことを思い出しました。今や「もつとお金欲しいなあ」「彼女欲しい

なあ」と考えてばかりの私ははつとさせられました。最近、他人の思いや人生観、仕事に向かう姿勢などを聞いていないためか、自分本位の凝り固まった考えや先入観が先行してしまっていました。ちょうど「ゆとり世代」の先駆けの年代である私は、あまり人に自分の意見を言わないし、人とぶつかることを避けていたようです。

### ● 仲間と思いや考えを声に出す

もともと、この記事を読んだ人も何かにチャレンジしてみようと思ってもらおうという趣旨もありました。答えになるかわかりませんが、まずは「ひとりでは考え込まず、周りの仲間思いや考えを声に出してみる」ことが大切だと思います。考えていることや思っていることが正しいのか分からず、かつこ悪いことも知れないと不安に思い、言えずにいることが多くあると思います。正しくなくても、かつこ悪くても、声に出せば人に伝えら



れたこと、そこから仲間の考えも加わって何か「変化」が生まれ、前に進むことができるかもしれません。

今まで米沢市職労青年部は、交流会などもあまりなく、役員会も年に二、三回くらいしかしていませんでした。この企画を通じて、月二、三回は集まり、LINE交換もして、ご飯を食べに行き、月一回教宣紙を出しました。そして何よりほとんど話したこともなかった仲間と話すことで、どんな人なのか、どんな考えを持っているのかを少し理解できた気が

## あとがき

あの時、安部くんが「女子高生に会いに鯖江に行こう」と声をかけてくれなければ、僕はいつの間に、いや、それはもしかしたら当時の僕が望んでいたことだったのかも知れないけれど、組合活動からフェードアウトしていったのだろう。今から一年前、僕が安部くんへ青年部

します。

本日は宮城自治研チャレンジサポートに応募したかったのですが、選挙管理委員会に異動となり、夏の参院選、冬の知事選の準備で、青年部活動も満足に行えない状態となり、応募は難しいかもしれません。

青年部長の任期は六月末までですが、米沢市職労青年部は六〇人くらいいるので、今後は役員だけではなく全体に広げていきたいと思えます。読んでくださったみなさん、「変化」の機会を与えてくだ

長のポストを引き継いだ時、僕は僕なりに組合活動に限界を感じていて、青年部長という立場では青年部……というか組合活動に関わりたくないと思っていた。その結果、安部くんには青年部長とかいう面倒な仕事を無理矢理押し付けたけれど、安部くんは文句一つ言わず青年部長

も、格好つけて派手にやるわけでもない。仲間たちと自由な発想とゆったりと流れる時間を共有して、成果よりも変化を求めていく。僕が青年部長時代にやりたかった青年部の活動は、これだったのかもしれない。

「ゆるぶろ」が終わった時、安部くんが僕を抱いた「何かしたくなってきた！何かできそうな気がする！」というモヤモヤは、今回の自治研チャレンジで発散された。

組合活動だからこそ、自治研だからからこそでできた今回の自治研チャレンジ。僕らの記事を読んでくださった皆様がどう思われるのかはわからない。「こんな自治研じゃないよね」と思われても仕方ない。僕ら自身、「自治研の趣旨から外れている気がする」と感じていたのだから、でも、僕らは僕らなりに楽しめたからそれでいい。

米沢市職員労働組合青年部の、自治研



米沢市職労  
青年部事務局長  
高橋大樹

チャレンジの最終稿。安部くんから「直しておいて」と原稿を渡され、それを読み終えた僕は、このあとがきの作成にとりかかった。安部くんが書き上げた原稿は、安部くんらしいユーモアがありながら、青年部長として、若い青年部員をこれからも牽引していくのだという、強固な意志を感じられるものであり、それは僕が予想していた内容とほぼ同じであったから直す必要はなかったし、そもそも、最終稿だけは安部くんが書き上げたものを直すつもりはなかった（誤字脱字を除く）。

最後に、読者の皆様にとのこと。安部くんは僕は付き合っているわけではないので、誤解のないように。

さった自治研のみなさん、そして企画を持ち込んだ時に快く乗ってくれた米沢市職労青年部の仲間ありがとうございました。



米沢市職員労働組合  
青年部長  
安部裕貴

を務めてくれている。交流会を企画したり、教宣紙を作成したり、とにかく青年部が良い方向に向かってくいように、安部くんが変化を起こそうとしていることを僕は目の当たりにしていた。

そうしたなかで参加した「ゆるぶろ」時間とお金と体力をかけて、米沢から出向いた鯖江で学んだ「ゆるく活動する」こと。ダラダラするわけではないけれど

## 「くみあい」活動って誰のため？

労働組合は基本的に共益型の組織なので、組合員のための組織と言えます。が、公務員の組合となると事情はやや複雑です。

上記記事でも公務員を志望した理由として、「米沢の子ども達の健康面を支え食育に取り組みたかった」「米沢市民のために働きたいから」という新規採用職員さんの声が拾われています。つまり「自治労」は市民のために働く労働者の組合、という点にこそ、その最大の特徴、そして微妙さがあります。

「一番に考えるべきは、組合員の利益？市民の利益？」その意味で、新書記さんの「市職員の労働環境を整えることで、より住みやすい米沢になる」と思ったから」という声は非常に貴重な気づきです。実はそれが自治研の基本ではないでしょうか？正解はありません。でも今後も仲間との対話のなかで、冒頭の疑問の答えを探し続けてください。

(自治研マイスター)